

PRESS RELEASE

Sakamoto Ryōma

坂本龍馬

没後150年



150th Year Commemorative Special Exhibition

2017年7月1日【土】－8月27日【日】

※休館日あり(8月1日より休館)

休館日 | 毎週月曜日(但し7月17日【月-祝】、8月14日【月】は開館、7月18日【火】は休館) 開館時間 | 10:00-19:00(入場は開館の30分前まで)

観覧料 | 一般1,200(1,000)円、大高生・70歳以上800(600)円、中学生以下無料

リピーター割引 | 2回目以降、美術館窓口での本展半券提示で当日券200円引

*1)内は前売および当日に限り20名以上の団体料金 *障がい者手帳等もご持参の方および高齢者連席1名は無料

主催 | 静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、読売新聞社、Daiichi-TV

後援 | 静岡市教育委員会、静岡県教育委員会 特別協賛 |  静岡銀行 協賛 | 野村印刷紙業 特別協力 | 京都国立博物館



静岡市美術館
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
tel. 054-273-1515 (代表) www.shizubi.jp

JR静岡駅北口より徒歩3分 夜7時まで開館

【プレスリリースのお問合せ】 展覧会担当：大石・吉田 広報担当：大庭・岩倉



静岡市美術館
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
tel. 054-273-1515 (代表) www.shizubi.jp
JR静岡駅北口より徒歩3分 夜7時まで開館

没後 150 年
Sakamoto Ryōma

坂本龍馬

150th Year Commemorative Special Exhibition

教科書でおなじみの坂本龍馬は天保六(1835)年に土佐で生まれました。浪士の立場ながら薩長同盟の仲介や大政奉還に尽力し、新政府の樹立をめざしますが、慶応三(1867)年に京都・近江屋で凶刃に倒れました。2017年は、大政奉還、そして龍馬の没後150年にあたります。龍馬の政治的・歴史的な評価は人により異なりますが、残された手紙を見ると、“歴史上の人物”としてだけでなく、人間味あふれる新たな「龍馬像」が浮かび上がってきます。本展では、龍馬の手紙や近年発見された資料から龍馬の実像に迫るとともに、同時代の美術工芸品などを通して、龍馬が生きた幕末という時代を紹介します。

開催概要

■開催期間：2017年7月1日(土)～8月27日(日) 全51日間

*前期：7月1日(土)～7月30日(日)、後期：8月1日(火)～8月27日(日)

■休館日：月曜日 ただし7月17日(月・祝)、8月14日(月)は開館、7月18日(火)は休館

■開館時間：10:00～19:00(展示室入場は閉館30分前まで)

■観覧料：一般1,200(1,000)円、大高生・70歳以上800(600)円、中学生以下無料
リピーター割引 2回目以降、美術館窓口での本展半券提示で当日券200円引

* ()内は前売および当日に限り20名以上の団体料金

* 障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

■前売券：5月26日(金)から6月30日(金)まで販売

静岡市美術館、チケットぴあ [Pコード768-269]、ローソンチケット [Lコード46046]、
セブンチケット [セブンコード053-465]、谷島屋呉服町本店、谷島屋マークイズ静岡店、
戸田書店静岡本店、戸田書店城北店、MARUZEN&ジュンク堂書店新静岡店

■主催等 主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、読売新聞社、Daiichi-TV

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

特別協賛：静岡銀行 協賛：野崎印刷紙業

特別協力：京都国立博物館

展示構成

1章 龍馬の生まれ育った時代

2章 土佐脱藩と海軍修行

3章 龍馬の手紙を読む

4章 龍馬の遺品

5章 薩長同盟から大政奉還—そして龍馬の死後—

6章 瓦版・錦絵からみた幕末維新

7章 美術工芸からみた幕末維新—近世絵画・刀・甲冑—



《坂本龍馬湿板写真》(複製展示)
原本:高知県立歴史民俗資料館

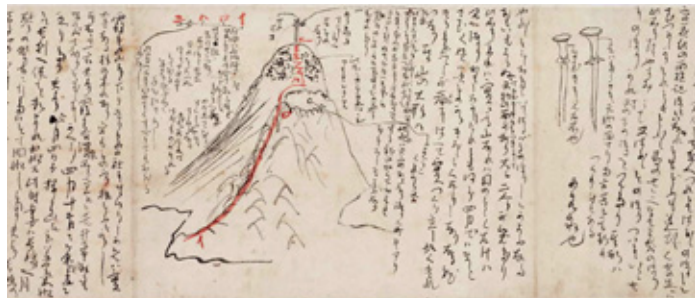
①手紙に見る龍馬の人柄

龍馬は家族、特に三歳上の姉・乙女宛おとめに多くの手紙を書いています。

あの有名なセリフ、「日本を今一度せんたく(洗濯)いたし申候」も乙女に宛てた手紙の一文です。

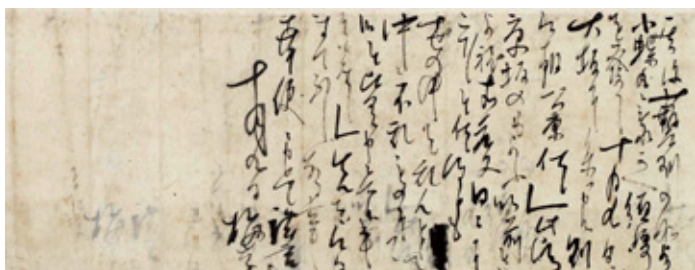
右の手紙は、傷の湯治のため訪れた妻・おりょうとの新婚旅行の様子を、絵入りで記しています。高千穂峰山頂あまのさかほこで、天逆鉾を「エイヤ」と引き抜いたとあります。

龍馬、高千穂峰に登る。
妻・おりょうとの新婚旅行！



重要文化財《坂本龍馬桂小五郎遺墨(文書集一)》より《龍馬書簡 慶応二年十二月四日坂本乙女宛》(部分) 京都国立博物館 (7/1-7/20展示)

家族にあてた最後の手紙。
大政奉還直前に書き、下部には墨移りの跡が残る



《龍馬書簡 慶応三年十月九日 坂本権平宛》(部分) 京都国立博物館

一方、大政奉還直前、兄・権平宛に送った手紙は、下部に墨移りの跡が残り、その慌ただしくも緊迫した様子がわかります。また、この手紙は家族に宛てた最後の手紙でもありました。

龍馬の手紙からは、脱藩後の動向はもちろん、龍馬の自由で柔軟な思考や先見性、交友の広さ、そして家族への気遣いなども読み解くことができます。

②龍馬の暗殺と愛用の刀

慶応三(1867)年11月15日夜、龍馬は近江屋母屋の二階で中岡慎太郎と談論中に暗殺されました。部屋にあった掛軸と屏風には、血が飛び散り、その生々しい現場の様子が伝わってきます。

このほか、札幌の坂本本家に伝来した重要文化財の三徳さんどく(紙入れ)や龍馬の愛刀つば、龍馬使用の鏡なども展示します。

飛び散る血痕！！
龍馬暗殺の部屋にあった掛軸と屏風



左：重要文化財 《書画貼交屏風(血染屏風)》(7/1-7/13展示)

右：重要文化財 板倉槐堂筆《梅椿図(血染掛軸)》(8/15-8/27展示) ともに京都国立博物館

龍馬暗殺の際に所持か！？



《刀 銘吉行》坂本龍馬佩用 京都国立博物館

波のようにうねる刃文が本来のもの

近年、坂本本家の資料から刀を含む様々な龍馬遺品の伝世経緯が判明しました。大正2年の大火で変形した龍馬の愛刀「吉行」は最新の調査で本来の刃文を確認。また資料の記録から、「吉行」は龍馬暗殺の際所持し、敵刃を受けた刀である蓋然性が高くなりました。

③龍馬が生きた時代、幕末

伊能忠敬の測量を元に制作された日本地図(伊能図)や、絵画に記録された歴史的イベント、ペリー来航関係資料、当時の新聞ともいえる瓦版、明治初期の錦絵、幕末の騒乱を描いた絵巻物など、龍馬が駆け抜けた動乱の時代を、同時代の美術工芸品を通してご紹介します。

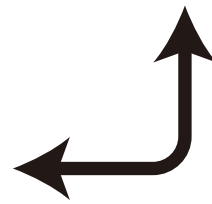
ペリーがやってきた！錦絵に描かれた黒船



《異国船図》 長崎歴史文化博物館 (前期)



《ペリー来航図巻(甲寅記事画巻)》(部分) 京都国立博物館



同じ蒸気軍艦(黒船)とは思えない？

詳細に描かれた黒船と
異形に描かれた黒船

④静岡だけの特別展示！

重要文化財 渡辺崋山《千山万水図》

作者は三河国田原藩士・渡辺崋山^{かざん}。幕府の海防掛^{がかり}に任じられたことから海外の情勢に通じ、蘭学を研究する一方、画家としても活躍しました。



(拡大)
3本マストの大型船が描かれている。
ペリーが来航するまで、日本では大型船の造船は禁止されていた。

《千山万水図》は、一見、中国風の山水画に見えますが、画中に外国船らしき船影があることから、崋山の海防思想が反映されているという説があります。本作の年記には「丁酉六月」(天保八年)とありますが、実際には^{ちつきよ}蛸居中の天保十二(1841)年に描いたと考えられています。この月は「モリソン号事件」が起こった月です。崋山は、この事件の幕府の対外政策を批判した『慎機論』を著し、蛮社の獄で捕えられることとなりました。

重要文化財 渡辺崋山《千山万水図》
天保十二(1841)年 田原市博物館(後期)

展示替え

作品保護のため、一部作品は展示替えを行います。
重要文化財については下記のスケジュールで展示します。

- 重要文化財 《小栗流和兵法三箇条》京都国立博物館（通期）
- 重要文化財 《書画貼交屏風（血染屏風）》京都国立博物館（7/1-7/13）
- 重要文化財 《坂本龍馬桂小五郎遺墨（文書集一）》京都国立博物館（7/1-7/20）
- 重要文化財 《龍馬乃遺墨雄魂生名録並海援隊日史秘記（文書集三）》京都国立博物館（7/21-8/9）
- 重要文化財 渡辺崋山筆《千山万水図》田原市博物館（後期）
- 重要文化財 《三徳 坂本龍馬使用》京都国立博物館（8/1-8/20）
- 重要文化財 《坂本家先祖書並系図（文書集二）》京都国立博物館（8/8-8/27）
- 重要文化財 板倉槐堂筆《梅椿図（血染掛軸）》京都国立博物館（8/15-8/27）

※この他にも展示替えを行う作品があります。

関連事業

- 1、講演会「坂本龍馬一手紙にみる人間性」
本展監修者で龍馬の手紙に関する著書を多数出版した宮川氏が、龍馬の手紙の面白さ、その魅力を語ります。
日時：7月1日（土）14：00－15：30（開場13：30）
講師：宮川禎一氏
（京都国立博物館 上席研究員、本展監修者）
会場：当館多目的室
参加料：無料
定員：70名（応募多数の場合は抽選）
申込締切：6月16日（金）必着
- 2、講演会「坂本龍馬の愛刀と幕末の刀剣事情Ⅲ
～戻るに戻れぬ復古主義～」
気鋭の研究者・末兼氏が、最新の研究をもとに龍馬の愛刀や同時代の刀剣について紹介します。
日時：7月22日（土）14：00－15：30（開場13：30）
講師：末兼俊彦氏（東京国立博物館 研究員）
会場：当館多目的室
参加料：無料
定員：70名（応募多数の場合は抽選）
申込締切：7月7日（金）必着
- 3、朗読音楽会「月琴で綴る龍馬の手紙」
龍馬の妻・おりょうも愛した月琴の音色とは？
龍馬の手紙とおりょうの回想録を、月琴の音色にのせて朗読します。
日時：7月16日（日）17：00－18：00
月琴演奏：永田斉子氏
朗読：静岡第一テレビアナウンサー
定員：70名
会場：当館多目的室
参加料：無料 ※申込不要(当日直接多目的室前へ)
- 4、刀剣乱舞DAY！クリアファイルプレゼント
「没後150年 坂本龍馬」×「刀剣乱舞-ONLINE-」
日時：7月14日（金）－17日（月・祝）10：00－
各日先着150名に特製クリアファイルを配布
※一人一枚まで、要観覧券提示
- 5、しずびオープンアトリエ
日時：8月8日(火)－20日(日)
①13：30－14：30、②15：00－16：00
対象・定員：小学生以上 各回15名(申込不要・先着順)
参加料：200円(受付でチケットご購入の上、会場へ)
- 6、しずびチビッコプログラム
日時：8月26日（土）
①10：30－12：00、②14：00－15：30
対象・定員：2歳以上の未就学児 各回10名
参加料：500円（保護者は要展覧会観覧）
申込締切：8月10日（木）必着
※申込方法、詳細は当館HPをご覧ください。

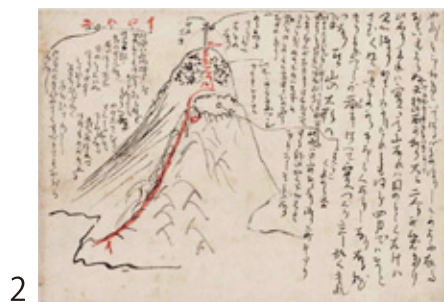
【1、2 申込方法】

当館のHP申込フォーム（www.shizubi.jp）または往復はがきにて。1件につき4名様まで。
往復はがき記載事項
①催事名、催事日 ②氏名（参加人数分） ③年齢
④住所（郵便番号から） ⑤電話番号、返信面に宛先をご記入の上、静岡市美術館まで。
※抽選の如何にかかわらず結果は通知いたします。

【静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業】

言の葉コンサート 尾上松也「龍馬がゆく」

日時：8月10日（木）19時開演 お問い合わせ：静岡音楽館AOI（054-251-2200）



作品クレジット

- 1 《刀 銘吉行》坂本龍馬佩用 京都国立博物館
- 2 重要文化財《龍馬書簡 慶応二年十二月四日 坂本乙女宛》(部分) 慶応二(1866)年 京都国立博物館(7/1-7/20)
- 3 重要文化財 板倉槐堂筆《梅椿図(血染掛軸)》 慶応三(1867)年 京都国立博物館(8/15-8/27)
- 4 重要文化財 渡辺崋山筆《千山万水図》 天保十二(1841)年 田原市博物館(後期)
- 5 《異国船図》長崎歴史文化博物館(前期)
- 6、7 展覧会イメージ